

## 「シナリオは今、書き換えられようとしている」

2021年07月05日

最近、見聞きするニュースは気が滅入ることばかりである。ところが、『週刊金曜日』の7月2日号に、京都大学の岡真理教授の「イスラエルの民族浄化とアパルトヘイトに高まる批判 シナリオは今、書き換えられようとしている」を読み、苦境にあるパレスチナ人を支援しようとする世論に変わってきているとの報告を嬉しく思った。

イスラエルのガザ地区攻撃を「草刈り」と呼ぶそうで、5月の「草刈り」では、パレスチナ人265名が殺された（非戦闘員128名うち子ども66名）。イスラエル側の死者は13名（非戦闘員1名、子ども2名）であった。イスラエルのミサイル一撃で高層ビルが崩落するほど、兵器は異次元に進歩した破壊力である。ガザの住民は人道支援で食いつなぎ、7割の人が満足に栄養が摂れてない。電気、水道は制限され、飲料水も質が悪く、内側から健康が蝕まれている。下水処理ができず、未浄化のまま海に放出されるので、海での解放感も奪われている。出口は塞がれ「生きながらの死」と言われる「野外監獄」である。イスラム教は自殺を宗教的禁忌とするが、希望を失くした若者の自殺が急増している。

今回の戦闘は、東エルサレムのパレスチナ人宅を明け渡すように迫られ、また、モスクで礼拝中の人々が襲撃され、多数が負傷したことに対し、ハマスがロケット弾を撃ち込んだ。これに「イスラエルの自衛」「ハマスのテロ」と言って、大規模なガザ攻撃が始まった。戦力は、子どもと大人の違いがある。東エルサレムとガザのパレスチナ人は連帯して、イスラエルの蛮行に抗議して平和的デモを行うが、極右のユダヤ人暴徒に襲撃され負傷し、そして、逮捕、投獄されている。岡氏は「民族浄化とアパルトヘイト」と言っている。

イスラエルが戦争犯罪、人道に対する罪を犯しても、戦闘が終われば、報道が止み、ガザの悲劇を忘れ、放置してきた。このことの繰り返しであった。しかし岡氏は、今回の抗議行動は規模も広がりも圧倒的に変わったと報告している。米国の諸都市だけでなく、ヨーロッパ、アフリカ、アジアの諸都市でパレスチナ国旗を掲げ、「ガザ攻撃を止めろ」「パレスチナに自由を」「イスラエルに経済制裁を」と唱和している。オークランド、バンクーバーなどの港湾労働者はイスラエルの船舶からの陸揚げや、イスラエル向けの武器の荷積み拒否した。600名を超すミュージシャンが「我々は、パレスチナ人及びこの惑星で植民地主義による略奪と暴力に闘うすべての者の正義と尊厳と自決権を要求する」と高々と宣言し、イスラエルの政策は植民地主義であると明言している。ハリウッド俳優のマーク・ラファロは、パレスチナ人に対等、完全な市民権が与えられるまでイスラエルを経済制裁することを世界の指導者に求める請願書をツイッターでシェアした。「南アの経済制裁は黒人を解放した。パレスチナ人解放のためにイスラエルに制裁を科すべき時だ」という請願に170万筆の署名を集めた。ハーバード、イェール、スタンフォードなどの米国主要大学の部局や研究者たちも、パレスチナとの連帯声明を出した。親イスラエル・ロビーの圧力の下、イスラエル寄りの報道をしてきた主要メディアも、パレスチナ側の被害を強調し、『ニューヨーク・タイムズ』紙は、攻撃で殺された64名の子どもの写真を掲載した。更に、ブラック・ライブズ・マター（BLM）運動の影響がある。リベラル派のユダヤ人やキリスト教福音派の若者の間で、パレスチナ支持が拡大しているが、正義と人権を求めるBLMの思想レンズで見ると傾向が見られる。黒人に対する白人至上主義とパレスチナ人に対するユダヤ人至上主義を重ね、レイシズムとアパルトヘイトを拒否している。岡氏は、「既存のシナリオを破り捨て、この新たな物語の名誉ある一部となろう」と締めくくっている。気の滅入ることばかりではない。命の尊厳を求めて闘う人々の希望の聲が高まっている。